

送辞

冬の寒さもようやく和らぎ、春めいた温かい日差しを感じられるようになりました。

このような良き日に、鹿北中学校を巣立っていかれる14名の先輩方、ご卒業おめでとうございます。

先輩方は、様々な場面で私たち在校生をリードしてくださいました。

鹿北中学校で初めて先輩方と出会ったのは、私たちが小学6年生の時でした。

一日体験入学で、鹿北中の行事や、授業の様子、部活動について笑顔で紹介される姿を見て、「鹿北中での学校生活はとても充実していて、中学校ってとても楽しいところなんだ。」とわくわくした気持ちになりました。

説明の最後にあった、「分からないことは、いつでも聞いてください。」という言葉に安心感を抱き、中学校生活への不安は軽くなっていきました。

私たちが鹿北中学校に入学し、すぐに新型コロナウイルスの影響で、学校は休校になってしまいました。

休校が明けて、再開した学校生活の中で、初めて出会った大きな壁は部活動です。

中学校の部活動について分からずにいる私たちに、先輩方は時には優しく、時には厳しく、熱心に指導してくださいました。

練習の時の真剣な眼差し、きつい練習でもチームメイトと声を掛け合って、必死に乗り越えようと努力する姿から、中学校の部活動はどんなものなのかを肌で感じることができました。

先輩方と一緒にプレーした最後の中体連大会は今でも忘れられません。

その時、先輩方と交わした「頑張ろう」の声かけや試合前に組んだ円陣でチームの一体感を感じたことは、強く心に残っています。

部活動を引退されても、私たちのことを気遣い、鹿北から遠方でも応援に駆けつけてくださる先輩方の優しさがとても嬉しくて、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

9月に行われた鹿北小中学校大運動会。

テーマである「超えろ」に向かって、3年生の応援リーダーを中心に、本番に向けて練習しました。

小学生にも気を遣いながら、大きな声で指示を出し、小中学生をまとめる先輩方の姿は本当にかっこよかったです。

私は、三役として全体に指示をする役割がありました。「どんな言葉をかければ私の思いが伝わるのだろう。」そんな不安を感じていた私を後押ししてくれたのは、先輩方から溢れていた運動会を本気で成功させたいという熱い思いです。

そんな先輩方の姿を見ていると、「私もやらなければいけない。」と勇気が湧いてきて、大きな声で指示ができるようになっていきました。

これは、先輩方への強い憧れがあったからだと思います。

私も、後輩を自分の行動や熱い思いで引っ張れる先輩になりたいです。

11月に鹿北町を笑顔にしたいとの思いで企画された「集まれ！芸術の森 in 鹿北」。

「企画から運営まで全て自分たちで」という考えを聞いた時には、最初すごく驚きました。

しかし、ある先輩の「全て自分たちで創り上げるというのは、とてもワクワクしませんか。」という言葉聞いたとき、私は「今までやったこともないし、どうなるかもわからないけど、そんな素敵なことに挑戦するんだ。」と、とても感動したのを覚えています。

それと同時に鹿北町を巻き込み、鹿北町の人たちを笑顔にできる行事になるように私も頑張りたいという気持ちになりました。

当日は、この体育館に小さい子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまで多くの方の笑顔が溢れ、本当に鹿北町の人たちが笑顔に、元気になりました。

そして、「集まれ！芸術の森 in 鹿北」を通して、先輩方が残してくださった「自分たちから」というメッセージは、これからの生徒会活動でも受け継いでいきます。

この2年間、先輩方は、いつも私たちを引っ張ってくださり、たくさんのことを教えてくださいました。

そんな先輩方がもう卒業されると思うと感謝の気持ちと寂しさでいっぱいです。

生徒会目指す姿、「間違ってもいい、失敗してもいいからチャレンジし続ける鹿北中生」、合言葉Try&Errorは、私たちの胸に深く刻まれています。

その精神を忘れずに、今度は私たちの手で「みんなちがって、みんないい」を認め合える鹿北中学校を創っていきます。

これから、先輩方は一人一人が選んだ道へ向かって旅立たれます。

様々な困難に出会っても、きっと先輩方ならTry&Errorの精神で、どんな壁も乗り越えていかれることと思います。

在校生一同、先輩方のご活躍をこの鹿北中学校から心より応援しています。

今まで、本当にありがとうございました。

令和4年3月5日

在校生代表